

# 子育てチャンネル



「ばあちゃん、お母さんに内緒で2万円ちょうだい」。

「なに買つの?」。

「新しいゲーム機」。

「残念ーばあちゃんは2万円も持っていないもん」。

「フーン、いくらなら持つてるの?」。

「4千円」。

「ちよつと良かった。K君(弟)と下に2千円ずつでちよつと良いね」。

「あつ、それも残念。ばあちゃんね、これから札幌へ行くの。ガソリン代、駐車場料、お昼ご飯代で4千円かかるから、Tにはあげられないの」。

「なあーんだ、そうか」。

「誰だ!?」ばあちゃんに頼んで『くら』とけしかけたのは?」。

長女に、2万円もせびられた話をした時、彼女は大口を開けて「ガハハ…」と

## 「お金の大切さ」 ～孫と祖母の会話～

笑った。犯人は長女だ、やっぱり!

孫は小学校3年生と2年生。大金を欲しがるには少々早すぎるのではないか。

長男が小学校1年生の時だから、もう35年前の話だから、もう35年前の話学校から帰宅した彼は

「先生が、明日教材費50円持つておいでって」。

「あら、細かいお金ないわ。この500円札持つて行って50円の小引き1回だけしておいで。残ったお金持つてきてね」。

長男は喜んで飛び出していった。1時間後、膨らんだ紙袋を持つて彼は帰宅。逆さにした紙袋からテーブルの上にザラザラッと中身を出して

「僕ね、Fちゃん(妹)にピンクの髪留め取ってあげようと思ってくじ引きしたんだ。なかなかピンクが出なくてね。おばさんが『もう一回引いて』くらん、

もう1回』って言ったの」。

青、白、緑、黒の大きな髪留めが10個。おつりなし。

「あーつ、そう。お釣りが無いのなら、明日は50円持つていけないよ。家にはもうお金がないんだわ」。

長男の目に見るみる涙が盛り上がり、ポロポロとこぼれ落ちた。もちろん長男は翌日教材費を学校に持つていけなかった。

15歳から24歳までの学生時代を、長男は下宿暮らしをした。

毎月の仕送りを予定外に使い込むことは一度もなく、大学時代の4年間は大阪に住み、スキー部に所属していた。

合宿費、遠征費、道具代などは、赤ペン先生や家具展示会の家具運びのアルバイトから捻出(ねんしゅつ)したという。

長男のお金の使い方の方は点は、小学校1年生のときから苦い経験にあるのではないかと思う。

大きくなっても親のすねを平気でかじっている若者がいる。オレオレ詐欺で他人さまの大切なお金をだまし取る不届きな若者が後を絶たない。

お金は額に汗して手に入るもの。

お金は命の次に大切なもの。孫たちにこれからお金の大切さを教えていかなければ、ばあちゃんのわずかな年金はいくつかのゲーム機に変身する恐れがある。

親たちよ、子供の欲しがるものを無条件で買いつけるのはやめたほうがいい。親は金なる木ではないのだから。

東川町人権擁護委員

山口 佐知子

「幼児センターの子どもたち」の作品紹介は休みます。